

ほろ酔い

マンハッタン

Manhattan

写真文

津島 修三

(秋田市在住)

アメリカで今、日本酒が大ブームになっているのをご存知だろうか。ニューヨークには日本酒を300銘柄も常備している和食レストランもあり(日本にだってそれだけそろえている店はほとんどないと思う)、現地在住の日本人だけでなく、アメリカのセレブやエグゼクティブもこぞつて食中酒として日本酒を楽しんでいるのだ。もはや日本酒は、日本人だけのものではなく、世界中に普及しつつある酒類の一つになっている。

今年9月27日に、ニューヨークのラファイエット通りにある大きなビルの2フロアを使って催された「THE JOY OF SAKÉ」という日本酒試飲会イベントでは、前売り75ドルという高額な入場料にもかかわらず、小売り関係者、レストラン関係者、一般市民など、千人近い人々が集まり、テーブルに並べられた日本酒を少しずつ試飲して、そしてほろ酔い加減になり、あちこちで歓談の輪が広がっていたのである。

並べられた日本酒はざっと300銘柄あまり、日本中の蔵元の酒が一堂に会した。試みに出品リストから県別の出品銘柄を数えてみたら、我が秋田県関係の出品銘柄は13点で、新潟、山形、福井、広島、長野、兵庫に次いで全国7位。1位の新潟県は44点もの出品があり断トツであった。2位の山形県が22点だ。秋田からは、会場に向いていた蔵元の社長さんをお見受けしたり、輸出用のラベルを貼って出展していた秋田の酒もあって、頑張っている蔵もあるのだなと実感したのだけれども、心情的には、これだけの日本酒王国なのだから、秋田の酒ももう少し世界市場に目を向けてもいいのではないのかなと思った。

実はニューヨークには、秋田県出身者が集まって秋田の酒をアメリカに広く紹介している、こうと熱心に活動をしている「美酒王国秋田の会」というグループがあり、自分たちでもしばしば秋田の酒の利き酒会を開いている。彼らは、秋田の酒の世界進出にとって、とても心強いサポーターだ。ボジョレーやボルドーという地名を聞けば誰でもワインの産地として知っているように、いつか、アキタから来まして」と言っただけで「オー、日本酒で有名なところですね」と、世界中のどこでも言ってもらえるような、そんな日がやっつこないとも限らない。秋田の風土で生み出されたものが世界中の人々に親しまれる、それはちょっと夢のある話ではないか。

ニューヨーク在住の秋田県出身者で結成された「美酒王国秋田の会」に陽気なニューヨーカーたちも加わり、「THE JOY OF SAKÉ」の会場で撮った記念写真は、ほろ酔いカメラマンのせいで微妙にブレていた

